



作物名 **ねぎ、だいず、その他野菜類、花き類**

病害虫名 **シロイチモジヨトウ**

1 発生予想 発生量 **多い**

2 発生地域 **県内全域**

3 注意報発表の根拠

- (1) シロイチモジヨトウ幼虫の発生は、8月上旬に県内8か所で行ったねぎの巡回調査の結果、過去5年間で最も多かった（発生ほ場率50%（平年値5%）、寄生株率3.3%（平年値0.1%））。また、8月上中旬に県内27か所で行っただいずの巡回調査の結果においても、過去9年間で最も多かった（発生ほ場率3.7%（平年値0.4%）、発生密度0.2頭（平年値0.0頭））。
- (2) シロイチモジヨトウ成虫の発生は、県内2か所に設置したフェロモントラップの調査の結果、両地点で7月末頃から増加した（図1）。
- (3) 気象庁の1か月予報（8月21日発表）によると、向こう1か月の平均気温は高く、降水量は少ない見込みであり、シロイチモジヨトウの増殖や活動に好適な条件である。

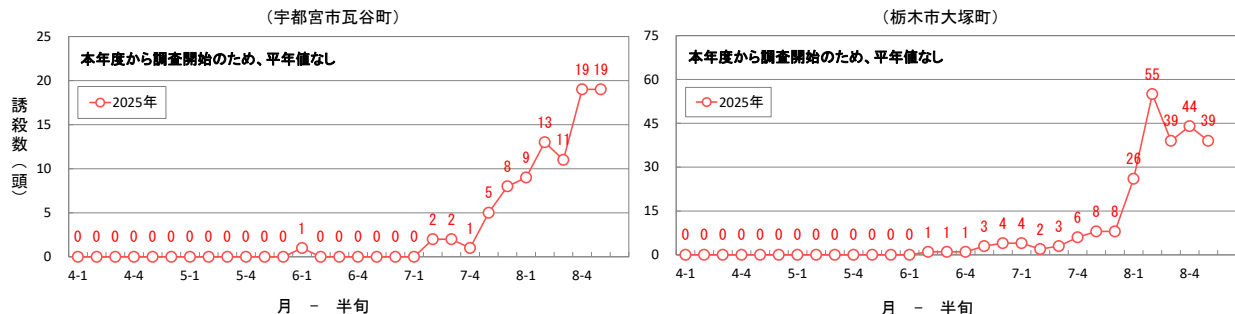


図1 シロイチモジヨトウ成虫のフェロモントラップによる誘殺数推移

4 防除対策

- (1) ほ場周辺の雑草は増殖源となるため、除草を徹底する。
- (2) 施設栽培では、開口部に防虫ネット（4mm目合い以下）を設置し、成虫の侵入を防止する。
- (3) 被害葉及び収穫残さは発生源となるため、一か所にまとめて表面をビニルで被覆する等、適切に処分する。
- (4) 幼虫の齢期が進むと薬剤の防除効果が低下するため、定期的にはほ場を巡回し、若齢期での早期発見・早期防除を徹底する（薬剤については、[栃木県農作物等病害虫雑草防除指針](#)を参照）。卵塊や分散前の幼虫は見つけ次第捕殺する。
- (5) 薬剤の葉への付着と浸透性を高めるため、機能性展着剤を活用する。薬害の発生を避けるため、使用方法をよく確認して適切に使用する。
- (6) 定植直後に食害を受けると生育が停滞し被害が大きくなるため、登録のある灌注剤や粒剤を定植時に使用する。
- (7) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

5 生態と形態的特徴

- (1) ねぎ、にら、たまねぎ等のネギ属作物を好む。その他にもいちご、キャベツ、はくさい、レタス、ほうれんそう等の野菜類、だいず等の豆類、花き類も加害する。
- (2) 卵は卵塊で産み付けられ、卵塊の表面はハスモンヨトウと同様に鱗毛で覆われる(写真1)。
- (3) ふ化直後の幼虫は集団で食害する(写真1)が、成長に伴い、付近の株に分散する。
- (4) 中・老齢幼虫は体側に白帯とピンク色の斑点を持つ個体が多い(写真2、3)。
- (5) ねぎでは、若齢幼虫は葉の表面を舐めるように食害する(写真4)。成長に伴い葉身内部に食入して内部から表皮を残して食害するため、葉が白化する(写真5、6)。また、虫ふんが葉身内の底部に堆積するため、商品価値が損なわれる。



詳細は、栃木県農業総合研究センター環境技術指導部防除課 (Tel 028-665-1244)

までお問合せ下さい。

病虫害情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X (@tochigi_nousei)」

農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>)

でもご覧いただけます。

